

**2014年3月期 第3四半期決算 IR 説明会ネットカンファレンス(2014/02/07 開催)**  
**質疑応答内容**

Q: エネルギー・金属部門で発生した減損について教えてほしい。また、さらなる減損の可能性等、通期の見通しについても教えてほしい。

A: 第3四半期においてガス関連権益の減損処理を行った。第4四半期においても一部保有資産の評価替えを想定している。

Q: Moody's が先日双日の格下げを発表したが、何故このタイミングだったのか。また、格下げによる調達コスト等への影響はあるのか。

A: Moody's による当社格付けについては、2009年に見通しが安定的からネガティブに変更された後4年間、そのままの状況が続いた。その間、同社とは毎年行われるアニュアル・レビュー・ミーティングにおいて早めの結論をリクエストし、その結論が漸く先日出た。結果として、当社の財務の健全化が進んでいる中での格下げとなり、4年間当社の状況を詳細に説明してきたが、Moody's に理解して頂けなかったことを残念に思っている。尚、今回の格下げにより、資金調達や実際の事業活動において、大きな影響が出るとは考えていない。

Q: 今期の通期見通しをどのようにみたらよいか、教えてほしい。

A: 通期の見通し250億円については概ね達成するとみている。

Q: 投融資の進捗と今後の見通しについて教えてほしい。また、Moody's の格下げによる投融資への影響はあるのか。

A: 第3四半期までに実行した投融資は約260億円となっている。第4四半期では、昨年公表した穀物集荷事業関連への投融資実行や、その他では石炭関連や自動車関連の投融資を予定しており、今期の投融資計画750億円から850億円について、全く進捗していないということではない。但し、disburse ベースでみた場合、来期に期ずれするものもある。なお、Moody's の格下げにより当社の投資スタンスが変わるということはない。当社はROA2%を標榜しており、今後、生活産業、化学、機械などの非資源分野において、新しい良質な資産を積み上げていきたいと考えている。

Q: ベネズエラの自動車事業の足元の状況について教えて欲しい。

A: 同国の政治情勢は不安定で、外貨の割当が規制され、昨年来、外貨(USD)の国外への送金規制が強化されている。また、同国の通貨切下げリスクもあり、ある程度の影響を見通しに織り込んであるものの、通貨の切下げがどういう幅・タイミングで行われるかによって収益に対する影響が変わってくるため、今後も注視していかなければならない。

Q: 海外自動車事業のうち、ベネズエラを除く地域の足元の状況をそれぞれ教えてほしい。

A: 当社の海外自動車事業は、ベネズエラ以外にも、ロシア、タイ、フィリピン、プエルトリコ、アルゼンチンで販売会社を運営しており、今期はそれぞれの地域で堅調に推移している。

Q: エネルギー・金属部門について、エネルギー関連の減損要因を除いた事業自体の足元の状況について教えてほしい。

A: 石炭や LNG 事業は堅調に進捗している。モリブデンやニッケルなどの合金鉄関連は市況価格が当初の想定価格よりも下回っており、業績進捗は低調となっている。

Q: 生活産業部門について、今期見通しの達成の可能性について教えてほしい。

A: 海外肥料事業は下半期は農閑期にあたるが、順調に業績を伸ばしてきており、第 4 四半期についても見通し通り進捗するとみている。また、海外工業団地事業も堅調に推移しており、部門全体として、通期見通しを達成するとみている。

以上